

# デジタルサイネージによる情報配信で 地域の活性化や多様なサービス創出を展開

日立のアーバンソリューション事業は、まちに暮らし集う人々やはじめて訪れる人々に向けて、利便性や快適性、安全性などに関するさまざまなソリューションやサービスを提供します。現在、デジタルサイネージ(電子看板)を活用したサービス協創も進めており、その一例として、訪日外国人や国内利用者の利便性を先端的IoTおもてなしサービスで高める「IoTおもてなしクラウド事業地域実証」において、日立が担当するデジタルサイネージ実証をご紹介します。

## 訪日外国人や国内利用者の 利便性を向上するIoTおもてなしサービスを実証中

総務省は、国際的に日本への注目が集まる2020年を大きな契機としてとらえ、社会全体のICT化を推進する取り組みを進めています。そこでは、政府より提示されたGDP600兆円達成に向けて、観光立国としてのポジショニングを確立し、訪日外国人へのおもてなしサービスのICT基盤整備とそれを高度化・進化させることが重要です。

そこで、総務省主催「2020年に向けた社会全体のICT化推進に関する懇談会」での「アクションプラン(第一版)」に基づき、2016年10月から地域実証が行われています。

日立は、このアクションプランを指針として運営する一般社団法人おもてなしICT協議会(以下、協議会)の取り組みに参画しています。2016年度は、成田空港から入国し、周遊・宿泊などで多くの訪日外国人が見込まれる成田・千葉・幕張地区を対象に、個々人が持つパスポートとスマートフォンアプリ、ICカードなどを属性情報でひもづけることで、美術館へのチケットレス入場や、宿泊施設のスムーズなチェックイン、デジタルサイネージによる観光情報や災害情報の取得などのさまざまな実証実験を実施。2年目となる2017年度は、地方都市や観光都市へも実証エリアを広げて取り組んでいます。

日立はこのなかで、複数の企業が参画する「デジタルサイネージによる観光情報・災害情報等の提供」に関する実証を取りまとめています。

## インパクトのある観光案内や 緊急災害時の安全を提供

本実証は、成田・千葉市内にいる訪日外国人の動線上に位置するホテルや観光案内所、商業施設、美術館など16か所にデジタルサイネージを設置して実施しています。今回設置したものは、高精細の4Kディスプレイを使った「情報配信型」の55型デジタルサイネージと、利用者がその情報を見て行きたい場所までのルート検索などの操作を行えるインタラクティブ型のデジタルサイネージです。

日立のデジタルサイネージ事業は、多拠点に設置されたデジタルサイネージ端末へあらかじめ定められた配信条件に合ったコンテンツを確実に配信する配信制御技術を強みとしています(2017年7月時点のパネル数で30,000面以上を運用)。このような実績が評価され情報配信型で参画した本実証では、次の3点を新しい取り組みとして試行しています。

### ①コンテンツクロス

あらかじめ施設オーナー間で承諾した条件下で互いのコンテンツを融通して配信しています。これにより、例えばエリア

内の異なった施設間で同じコンテンツを流して情報価値を上げるという新しい協業モデルが期待されています。

### ②異業種企業と協力した コンテンツ提供モデル

協議会に参画する4K動画ライブラリを作成するコンテンツ制作企業などと協力し、異業種間の協業モデルとして取り組んでいます。この結果、近隣の公園で咲き始めた桜の映像をホテルのロビーで見た海外からのお客さまが、観光スケジュールに急きょ組み込んで新たな楽しみや発見につなげていくような効果が生まれました。

### ③災害情報配信

異なる施設オーナーのデジタルサイネージにLアラート(災害情報共有システム)の気象情報を配信していますが、今後は施設ごとに適した災害情報も配信し、現地が混乱しないような運用面も含めて各施設オーナーの意見を反映して試行する予定です。

## 情報の提供価値を高める 「日立総合情報ソリューション」

本実証では、デジタルサイネージを設置したホテルや観光案内所などの施設オーナーから、「レストランの混雑緩和やショップへの誘導など、サービスと収益の向上につながるコンテンツ配信のアイデア

が欲しい」「手間をかけず、より魅力的なコンテンツを配信したい」といった多くの要望が寄せられました。

そこで、こうしたお客さまの声を反映した高付加価値サービスの提供に向け、日立はデジタルサイネージ配信基盤と連動した「日立総合情報ソリューション」を開発しました。

本ソリューションには、情報配信しているお客さまご自身がコンテンツや番組表を登録し、場所や時間帯に応じて各ディスプレイにコンテンツを配信できる機能に加え、あらかじめ施設オーナーと契約している広告主や代理店も利用できる「インテリジェントCMS※1サービス」の機能も含

まれています。これにより、多様な情報を統合的に管理するデータベースと高速分析エンジンを活用し、お客さまのコンテンツとニュースや天気予報といった外部コンテンツを適切な形で組み合わせ、場所や時間帯に応じた自律的な配信や、複数台ディスプレイの表示タイミングを合わせたインパクトの高い空間演出などが実現できるようになります。

また、スマートフォンアプリとの連動をはじめとしたサービス連携も期待されています。

将来は、各デジタルサイネージ端末から収集したログデータや、施設内の監視カメラ、各種センサー、人の流れなどを

詳細に解析するAI※2などと組み合わせ、より効果的なコンテンツ作成や、施設来場者の属性に合わせたオンデマンドな情報配信、災害時の安全・確実な避難誘導、業務改善・省エネなどにも役立つ情報分析サービスへと進化させていきます。さらにスマートフォン連携や、他社の配信プラットフォームを含む複数サイネージへの一斉配信にも対応する予定です。

これからも日立は、デジタルサイネージによる情報の提供価値をより一層向上させていくことで、便利で安全なまちづくりに貢献していきます。

※1 Contents Management System  
※2 Artificial Intelligence



本実証におけるデジタルサイネージの設置場所(2016年度)

お問い合わせ先

(株)日立製作所 アーバンソリューションビジネスユニット  
<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/urban-sol/general/form.jsp>

情報提供サイト  
<http://urban.ext.hitachi.co.jp/>